

子どもたちの輝く未来のために！

平成18年1月13日発行

教育センターニュース

ミネルバ

98号

佐賀県教育センター <http://www.saga-ed.jp/>
〒840-0214 佐賀県佐賀市大和町大字川上
TEL 0952-62-5211 FAX 0952-62-6404

特集記事

- 新春教育対談 佐賀県教育について語る
佐賀県教育委員会 吉野教育長と
教育センター宮崎所長対談
- 平成17年度
教育論文・マルチメディア教材入賞者発表
- 長期研修生の研究課題一覧



新春教育対談！

これからの佐賀の教育を考える

一 佐賀県教育力を高める 一

佐賀県庁教育長室において、「これからの佐賀の教育を考える！」と題して、吉野健二教育長と宮崎正則所長の対談を行いました。ここでは、その対談の要約を紹介します。



吉野教育長

信頼される学校

所長 明けましておめでとうございます。本日は、私どもの所報「ミネルバ」の企画として、「これからの佐賀の教育を考える」をテーマにお話を伺いたいのので、よろしくお願ひします。

早速ですが、最近子どもたちが多様化し、中にはコミュニケーションがとれないとか、極端な行動に走るなどの例も見られます。このような中、学校教育のあり方や役割についても、家庭や地域との関わりの中で、いろいろと考えなければならぬことが増えてきました。

教育長 現場の先生方から、例えば、「最近では、善悪の判

断や人との付き合い方などまで学校で・・・」との話をよく聞きます。

佐賀県では、少子化・核家族化などの「家族の姿」は大都市ほどには変わっていませんが、マイカーも普及し、自分が住んでいる地域の外で働く人も増えているなど、「地域の姿」は変わってきており、昔は「地域で子どもを育む」風土も強かったでしょうから、影響は大きいと思います。

そんな中、「学校、家庭、地域」が役割を果たし、連携するのが重要」と言われ、そのために「具体的にどうするのか」という実践が、まさに問われています。

所長 その一つとして、「開かれた学校づくり」が言われており、県でも昨年、保護者や地域の人々による外部評価も含めた学校評価を全ての公立学校に導入しました。これまでも、各学校では自己評価などに取り組んでいましたが、学校による違いもあったようです。



宮崎所長

教育長 学校評価は、評価のための評価ではなくて、各学校が保護者などの意見も参考に、自らその取組の改善につなげていくことが本来の目的であり、その意味では、学校と家庭や地域をつなぐ「コミュニケーションのツール」なのです。

学校運営において、「家庭や地域」とどのように連携してよいかわからない」といったことをよく聞きますが、この学校評価のシステムでは、学校が、「子どもたちをどのように育むのか」、「家庭や地域に何を担ってほしいのか」といったメッセージを伝え、地域や家庭からは、学校にお願いしたいことや考えてほしいことを返す、といったやりとりができます。各学校には、現場の課題解決へ向けた一つの道具として、うまく使いこなしていただきたいと考えています。

教育は人なり



所長 「現場がいかに主体的に施策や制度をとらえていくか」ですね。学校なら、まず「一人一人の教師がいかに主体的に取り組んでいくか」になるんじゃないでしょうか。そう考えると、一人一人の教師が果たす役割は大きいですね。例えば、スポーツや芸術では、良い指導者が異動す

ると今度はその学校が強くなる
ということがよくあります。

教育長 ええ、教育委員会が

いかに制度を改革しても、つまるところ、教育は、学校現場で先生方が一人一人の子どもたちとじかにふれあい、働きかけていく部分が大事ですから…。現在の教育課題に対し、「文科省とか教育委員会が言っているから」ではなく、それぞれの施策や制度がどのような考えから打ち出されたものなのか、また、それらは目の前の子どもたちの成長にどう活かしているのか、そういう前向きで戦略的な発想で臨んでいただきたいんです。それら一つ一つの取組が県全体の教育課題の解決につながりますし、それがなければどんな施策も「絵に描いた餅」にしかならない。

幸い、本県の先生方は使命感にあふれ、自己研鑽に熱心だと思っ
うんです。例えば、教育センターの教育実践交流会なども拝見しましたが、分科会やワークショップで熱心に意見交換をされていて、頼もしく感じました。

所長 私たちもそういう現場の教師に少しでも役に立てばと、ホームページで全国各地の優れた学習指導案や教材のリンク集の構築に力を入れていきます。手前味噌ですが、かなり充実したコーナーですし、このと

ころアクセス数も、現場からの意見や要望も増えてきているところ
です。

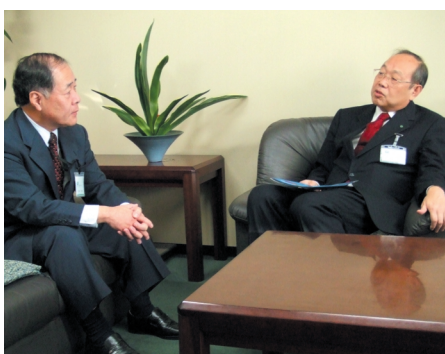
教育長 私も時々見えていますよ。最近ではITの発達で、一人一人が持つ知恵やアイデア、ノウハウを共有することが以前より簡単になってますし、その結果、物事を効率的に進めたり、全ての人が一定水準以上の仕事ができるようにするといった取組が進んでいます。このページは、佐賀県の教育においてそういうことを進めるための基盤だと思いま
すし、佐賀県の教師には、いわば「日本一の自己研鑽」ができるチャンスがあるのですから、もっと普及すれば、県全体の教育水準の向上に大きく貢献するだろう
と思っています。

所長 要はそういう一人一人の「やる気」が大事だということでしょう。最近の話題では、今年度末からFA制度を導入しますよね。勤続十一年以上で勤務経験二校以上、かつ現任校に四年以上勤務している教師であれば、得意分野などを示して手を上げることができるということとであり、やる気のある教師には魅力的に映ると思うんですが……。

教育長 現場の努力や創意工夫を県全体の教育課題の解決につなげるには、一つはセンターの

ように情報やノウハウを共有することがありますし、もう一つは、現場の先生方が日ごろから、「佐賀県の教育水準の向上のために、ぜひ取り組んでみたい」と思っている教育活動を実現できる機会を設けることもあると思うんです。

また、この制度のもう一つの特徴は、まずは学校長から、「特色ある学校づくりへ向けてどのようなビジョンを持っているのか」を提案してもらい、「ビジョンの実現のため、どのような資質や能力をもった教師が必要か」を示してもらうことにしています。つまり、各学校長のビジョンの実現を、人材の面で支援するものでもある
のです。



学力と意欲・主体性

所長 国でも義務教育の見直しの中で議論されていますが、基礎学力の定着も最近のトピックスですね。佐賀県では、最近二
度の学習状況調査を比べると、学力は全体として改善していますが、これは、前回の調査結果を踏まえ、読書の習慣化や体験的な活動・実験などを取り入れた授業の工夫などに取り組んだこと、繰り返し学習や補充的な学習などを行い、基礎・基本の定着に地道に取り組んだことなどが成果につながっている
と思います。また、学力向上フロンティアの取組の効果もある
と思います。

ただ、もう少し細かくみてみると、考えを書いたり、資料を読みとったりするような力は弱いようですが、その辺はどうですか？

教育長 確かに、「一二回の調査を通じて学力の向上がみられており、この点は、現場の先生方がいろんな工夫や努力をされ、その成果があがってきている
と思っています。

その一方、学力の課題も見えてきていますから、今後はもっと掘り下げた部分で、例えば「どうすれば考える力を定着させられるのか」、「指導の方法や体制をどの

ように改善していくべきか」などといった分析も必要と考えていま
す。

最近、教育委員会でも少し分析を行っていて、分かってきたこと
もあります。例えば基礎知識が定着しているほど得点分布のばらつきが小さい、これは当然ですが、ばらつきが小さい地域の場合、基礎知識に加えて考える力が定着しているほどばらつきが小さく、さらにこの考える力は、教科への関心や意欲が高いほど定着も進むよう
です。一方、学習の動機をみると、佐賀県では全国と比べても積極的で、これ自体はいのことなんです
が、学年が上がるにつれ、全国と比べても将来や生活のためなど内面からくる動機が弱くなり、受験や誉められたいなどの外発的な動機が強くなる傾向がある
ようです。

まだ細かい検証をやってはいませんが、学習に対する意欲や主体性に一つの壁があつて、「いかにして勉強を『やりたいからやる』と思わせるか」が課題と考えています。

所長 意欲や主体性ですか……。古くて新しい問題
という
か、現場の先生方も子どもたち一人一人の個性を踏まえ、これまでもいろいろ取り組んできていると思うんですがね。



教育長 もちろん、現場の先生方は日々、努力や工夫をされていると思いますし、そういった中で効果のある取組や指導方法を他の先生方にも参考にしてみようとか、それらを支援するための制度や施策を提供するといったことが教育行政の役割だと思います。

このような中、学力の現状を適宜、きめ細かく把握し、指導のあり方などに活かしていくことが大事ですから、特に学習状況調査は一層の充実が必要と感じています。



学力へのアプローチ

所長 学力という点では、例えば一昨年のオンリーワンをは

じめ、教育委員会もいろいろ取組んできたところですが、最近ではどのような取組がありますか？

教育長 今のところまだ研究段階ですが、佐賀大学との連携プロジェクトである「総合的環境教育佐賀プラン」の開発において、大学から「狭い意味での環境教育にこだわらず、子どもたちの学力的な課題に應えるもの」としたい」との提案があり、十一月に現場の先生方にも入っていたいただき、研究会を立ち上げました。研究会では、学力や地域社会のデータも示し、「どんな資質・能力を育むのが必要か？」、「それに必要なカリキュラムとは？」などについて検討をはじめたところですが、最終的には、「地域の環境」を素材に、子どもたちの学力面での課題、例えば、「比べる」、「類推する」などの資質や能力を身に付けることができるカリキュラムを開発する予定、と聞かれています。

所長 興味深いお話ですね。教育センターとしても関心がありますし、今後はできるところから関わっていければと思います。

教育長 同じことを感じているところが多いと思いますが、考えられる力や意欲は、これらの社会を生き抜くために不可

欠と思いますし、少なくとも佐賀県の子どもたちには、それらを確実に身に付けてもらえるよう取組みたいですね。



さまざまな課題とセンターへの期待

所長 それから、学力や学習に対する意識以外にも、教育をとりまく話題は多いですね。最近も、子どもたちが被害者になったり、加害者になったりする事件が頻発し、心の教育などが重視されています。また、体力の低下も取り上げられたり、食育なども重要ですね。

教育長 共通するのが、いずれも「これで充分」といった決定的な処方箋がなく、いろいろな角度からの取組が必要で、さらに、その中には学校だけでなく、家庭や地域にもお願いしなければならぬということも少なくないと思います。これらは「教育なんだから、学校で」と良く言えば学校への期待、悪く言えば依存が強くなっている中で、学校自身の取組も必要なものの、子どもたち自身の「生きる姿勢」に関わ

る部分などは、やはり親とか、身近な大人でないと育めない面もあると思うんです。

だからこそ、地道ではあるんですが、きちんと実態を把握し、それらを分かりやすく、オープンにしながら、より多くの方々に教育への関心を高めてもらい、目の前の子どもたち一人一人に対して、学校、家庭、地域社会がそれぞれの立場から必要なことを確実にやっていたらいいように働きかけていくことが重要と思っています。

所長 センターでも研修や相談などに力を入れていますが、特別支援教育も、これからの学校教育における重要な課題ですね。

教育長 ええ、これまでも学校長など管理職への研修や、コーディネータの養成研修、一人一人の状態に応じた適切な支援ができるよう、個別的教育支援計画の作成などにも取り組む、確かに、教職員の理解は進んできました。ただ、これらは「知っていればいい」、「分かっている」ものではなく、実際に具体的な行動に移せるかどうかのポイントですから、今後もしっかり取り組んでいくことが必要と思っています。

所長 教育センターでは、昨年四月に「実行宣言」を行い、学校現場に役立つ高感度かつ好感度なセンターを目指して努力

を重ねています。最後に今後のセンターへの期待をお願いいたします。

教育長 一つには、最初に申し上げたホームページ。これは本当に重要で、多くの現場でアイデアや工夫が共有され、結果として先生方一人一人がさらに一段上を目指すとか、全体で質の高い教育ができるとか、そんな雰囲気があれば心強いですね。

それから、学力では、まず学習状況調査の結果について、詳細な、あるいは地域社会などの背景とも関わった分析が必要だと思います。

そして、家庭とか地域との関わりも含め、なかなか解決策が見つからない課題について、所員一人一人の専門性や経験を活かしていろいろなアイデアを出していただきたいですね。

いずれにせよ、センターには教育委員会の「シンクタンク」としての役割を期待しています。

所長 私たちも、現場の学校や先生方の活動支援を通じ、佐賀県教育課題の解決に貢献できるよう、これからもより一層充実した取組を進めていきます。本日はありがとうございました。





平成17年度教育論文・マルチメディア教材入賞者発表

今年度の教育論文・マルチメディア教材の募集には、31編の力作が寄せられました。審査の結果、次のように入賞校および入賞者が決定しました。入賞校・入賞者の皆さんを研究主題とともにお知らせします。皆さんおめでとうございます。

教育論文部門

〔校内研究の部〕

- 優秀賞

嬉野市立嬉野小学校
研究主題

代表〔校長 太田ゆみ子〕
小学校における特別支援教育推進体制の構築
－校内リソースを活用した支援体制づくり－
- 優良賞

鹿島市立七浦小学校
研究主題

代表〔校長 植松直樹〕
伝え合うことに喜びを感じ、積極的に学ぼうとする子どもの育成
－国語科「話す力・聞く力・話し合う力」の伸長を核にして－
- 奨励賞

鹿島市立東部中学校
研究主題

代表〔校長 田口哲夫〕
命を大切にし、互いに尊重しあい、共に生きようとする生徒の育成
－「学び、考え、行動する」ことのできるエイズ教育（性教育）をめざして－

〔個人研究の部〕

- 優秀賞

佐賀市立神野小学校
研究主題

教諭 吉田 まりか
子どもが意欲的に取り組む英語活動の研究
－高学年児童の発達段階に応じた内容や指導法の工夫について－
- 優良賞

佐賀市立新栄小学校
研究主題

養護教諭 光石 成江
保健室と職員室とをつなぐ教育相談活動の創造と実践
－新栄子どもサポート隊の活動を通して－
- 努力賞

佐賀市立若楠小学校
研究主題

教諭 七條 康聡
児童のメタ思考を意識した算数科学習指導の在り方
－学び合い・自己評価問題の改善を通して－
- 努力賞

唐津市立西唐津小学校
研究主題

教諭 南 一也
読字の困難さを持った知的障害児への支援の実践
－LD児研究における読字プロセス理解を通して－



マルチメディア教材部門

- 優秀賞

千代田町立千代田西部小学校
題材 算数教材

教諭 小西 徹
- 優良賞

唐津市立高島小学校
題材 漢字読み先習教材「フラッシュくん」

教諭 菊池 修二
- 優良賞

佐賀市立本庄小学校
題材 そのごみ、どうするの？－清掃工場のひみつを探ろう－

教諭 木田 啓二
- 努力賞

武雄市立西川登小学校
題材 だいつはかせになろう

教諭 中村 勝敏

★長期研修生は各自の研究内容を平成18年2月16日（木）の教育実践交流会ワークショップで発表する予定です。

長期研修生の研究課題一覧

視点	研究課題	研究領域	所属校	氏 名	視点	研究課題	研究領域	所属校	氏 名
A 基礎学力の定着	思考力、表現力を高める学習指導の在り方	国 語	神 埼 小 学 校	ば ば 馬 場 さなえ 早苗	教育 C 個別の生徒ある在り方 的支援の在り方 1	個の成長を促す教育的支援の在り方 1	教育相談	鍋 島 小 学 校	そ え じ ま 副 島 輝 史
		国 語	山 内 西 小 学 校	か わ し ま 川 島 かつあき 勝秋			特別支援教育	基 小 山 校	た か ぎ 高 木 千 明
		国 語	北 茂 安 中 学 校	み や ち と 宮 本 あきこ 晃子			教育相談	明 小 倫 校	た じ ま 田 島 あつこ 敦子
		理 科	第 中 学 校	う れ し の 嬉 野 まさや 雅也			生徒指導	嬉 中 学 校	い け だ 池 田 ともこ 朋子
		理（化）学	三 養 基 高 等 学 校	お の 小 野 つよし 剛			領域・教科を合わせた指導	金 立 養 護 学 校	な か も と 中 本 の り こ 典子
	効果的な少人数指導の在り方	算 数	若 楠 小 学 校	も り な が 森 永 りいちろう 理一郎	用 D 個別の生徒ある在り方 的支援の在り方 2	個の成長を促す教育的支援の在り方 2	自立活動	大 和 養 護 学 校	か た ひ ち 片 瀬 か お り 香 織
		算 数	多 小 学 校	は お い わ 榮 岩 かずひろ 和浩			理 科	巨 小 学 校	そ え じ ま 副 島 かつひこ 勝彦
		外 国 語（英 語）	芦 中 学 校	き の し た 木 下 ひさよ 久代			算 数	相 知 小 学 校	ま す だ 益 田 ひろし 宏
		数 学	伊 万 里 中 学 校	か わ は ら 川 原 やすはる 靖治			商 業	鳥 栖 商 業 高 等 学 校	い ま ゐ ら 今 村 つよし 剛
B 豊かな人間性の育成	基本的生活習慣や学習習慣をはぐくむ小学校低学年の指導の在り方	特別活動	春 日 北 小 学 校	や ま し た 山 下 み 美 紀	<編集後記> 明けましておめでとうございます。 本号特集では、吉野県教育長と宮崎所長との対談を掲載しました。昨今の学校現場に向けられる期待の大きさと私たちの責任の重さに身の引き締まる思いです。子どもも教師も生き生き過ごせる学校を皆でつくりたいものです。 佐賀県教育センター http://www.saga-ed.jp/				
		学級経営	春 日 北 小 学 校	や ま だ 山 田 て る あ き 照 昭					
	伝え合う力をはぐくむ指導の在り方	総合的な学習の時間（英語活動）	若 葉 小 学 校	ま つ 尾 美 直 余					
		道 徳	東 山 小 学 校	さ し 佐 志 た け し 健					
		道 徳	西 有 田 中 学 校	む とう 武 藤 き み こ 喜 美 子					